

第1回長崎県がん診療連携拠点病院研修会
(アンケート調査結果)

開催日 平成21年6月11日(木曜日)

時間 19:00~21:00

場所 長崎大学医学部良順会館 2階 ボードインホール

出席者 116名 回答者 50名

出席者の内訳

職名	施設名	大学病院	長崎市民 病院	長崎医療 センター	島原病院	佐世保市 立病院	原爆病院	他施設
	総数							
医師	59名	13名	8名	7名	1名	0名	2名	28名
薬剤師	6名	4名	0名	0名	0名	1名	0名	1名
看護師	27名	18名	0名	3名	0名	0名	1名	5名
放射線技師	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名
MSW	4名	1名	0名	1名	0名	0名	0名	2名
事務職員	12名	0名	4名	1名	1名	1名	1名	4名
その他(*)	7名	2名	0名	1名	0名	0名	0名	4名

(*) 臨床心理士、診療情報管理士、薬品メーカー等

～今回の講演『がんにおける病診連携に関するアンケート調査報告』、

『5大がんの地域連携クリティカルパス開発の現況と課題』の内容について～

① よかったところ

- ・現状が理解出来ました。(薬剤師)
- ・とても勉強になりました。(事務職員)
- ・活発な意見交換が聞けた。(薬剤師)
- ・演者の意志がはっきりされていて、また聞きやすくもあった。(看護師)
- ・患者さんが安心して治療が受けられるパスでなければならない。(MSW)
- ・知識をもっていなかった。地域連携クリティカルパスについて学ぶことができ、大変勉強になりました。(臨床心理士)
- ・院内だけでなく、地域単位での連携パスがあることを初めて知りました。(看護師)
- ・患者さんや医師をサポートするスタッフの積極的な関わりがないと連携は進まないと考えさせられました。(その他)
- ・当院ではクリティカルパスは導入しておりますが、がん拠点病院の施設基準をとっていないので、今から準備段階の状況です。地域連携は進めている状況ですが、がん病診連携、拠点病院を取得できた際に、参考に来たかと思う、とてもわかりやすい説明で良かったです。(事務職員)
- ・パスに関する方向が理解できた。(医師)

- ・比較的わかりやすかった。(医師)
- ・特化した活力の情報告知にも役立つ。患者へのけいもうになる。(医師)
- ・このような計画があること自体を知らなかったので勉強になりました。(看護師)
- ・がん治療の連携について、多くの関連病院が関心と実施の心づもりがあることがわかったこと。具体的な連携の方法についてのヒントが得られたこと。(医師)
- ・拠点クリティカルパスの話。
- ・現状がわかった。(医師)
- ・概要がわかった。(看護師)
- ・パワーポイントがわかりやすかった。(事務職員)
- ・今回のアンケートに積極的に回答された先生方というバイアスは考慮しても、がん患者の受け入れに関心をもっておられる医療機関が多くて意外に感じた(良い意味で)。パスについて非常に具体的に詳細な内容で参考になった。(薬剤師)
- ・具体的な数値により説明があった点。がんの連携パスについては、その作成がとても困難であるため、取り組みがあまり進んでいない中、自ら進んで努力されている姿に感銘を受けた。(事務職員)
- ・連携室の機動力が必要であることを言って頂いた事。(MSW)
- ・興味深いアンケートだった。谷水先生のお話は地域連携パスのことがよくわかった。(事務職員)
- ・アンケート結果、連携パスの考え方等、役に立った。(医師)
- ・タイムリーな話題で役に立ちました。
- ・連携パス立ち上げの実況をみることができました。(医師)
- ・とにかく一歩でも進んだ感じがあります。(医師)
- ・パスに関する意識がもてた。(医師)
- ・問題点の登場。(医師)
- ・患者さんへの説明書をつくっておくことが重要であることが認識できた。(医師)
- ・クリティカルパスの必要性が十分に理解できた。(医師)
- ・全国的現状もきけてよかった。(医師)
- ・患者の方からの「地域連携パス」の不安点などが聞け、これらがクリアーできるかが当院での「地域連携パス」が成功するかどうか聞いたこと。(医師)
- ・連携パス開発の現況がよくわかった事。(医師)
- ・患者団体へのアンケートのスライドより、連携するためには日頃のスキルアップの努力が必要であることを今さらながら自覚させられた。(医師)
- ・連携パスの作成が何を目標しているのか明確になった。(医師)
- ・連携パスは人が動くようにするのがポイントであるというところ。(看護師)
- ・現状が充分分かった。(医師)
- ・問題提示できた。(医師)
- ・準備等における示唆になった。(看護師)
- ・連携で重要な key person=coordinator、看護師の働き (flexibility) 精神がわかりました。実際運

用はいろいろと難しいようです。(医師)

② 気になったところ

- ・看護部の協力が不可欠との話が気になりました。(事務職員)
- ・特にないです。ただ2時間休憩時間がないと、少しきつかったです。1部と2部の間、もしくは、2部の質疑の前に休憩時間を入れてほしかったです。(臨床心理士)
- ・一般病院でがん診療をおこなっている所のポジション役割は？(医師)
- ・一般病院・診療所の実状が理解されていないのでは？(医師)
- ・第1回の研修会ですので、あまり云えませんが、長崎での具体化した連携の方法の構築について、見えなかったこと。今後に期待します。(医師)
- ・実際には県内でも地域によって医療連携について関心の高さに差があるように感じる。調剤薬局のレベルアップも必要。連携パスの運用の背景にどの地域でも同じ様な問題が存在している。それでも運用に踏み切れるモチベーションはどのようにして形成されるのでしょうか。やはり患者さんの不安は当然のこと、きちんと対応できるだろうか不安。(薬剤師)
- ・アンケートの項目が興味あるものばかりでほとんどの内容が気になった。連携先医療機関のレベルに対する不安をもっている患者についての対応についてどうするか、これは留意すべき点である。(事務職員)
- ・専門医と開業医(かかりつけ医)の認識の差が埋まるのでしょうか？(MSW)
- ・アンケートの回答率が低いことが残念。(事務職員)
- ・具体的な話が少ない。(医師)
- ・最後のまとまりが・・・なかったような。(医師)
- ・NSの働きが重要なことは同感です。(医師)
- ・核となるスタッフ(大学?)が必要。(医師)
- ・連携パスは考え方によっては拠点病院→病院・診療所へのお願いという形と思われるが、逆に病院・診療所→拠点病院への要望は可能なのか？顔見しりのないDrからの紹介を「診療情報提供書」という1枚だけで引き受けるということに抵抗があるため、Dr間のコミュニケーションも必要ではないのか？専門分野以外のフォローは拒否できるのか？(自信のない分野ではトラブルが生じやすいような感じがします)(医師)
- ・地域連携を図るにあたって、患者・医療者をつなぐコーディネーターの必要性の大きさをあらためて強く感じました。各外来の看護師がその役割を担うことができればよりスムーズだと思うが、マンパワー的にも厳しい現状にあると思います。関わる各部門の理解や協力が重要だと思いました。患者さん、医療者ともに安全で安心・満足のできる連携が図れるよう、今後も考えていきたいと思っています。(看護師)
- ・パスを患者さん中心にするのであれば医師が動くべきではないと思う。(医師)
- ・パスに関してはすすみつつあるが、地域連携の実際をどうすすめていくかがまだ不明瞭。(医師)
- ・質問者が述べたように勉強の場がほしい。(医師)
- ・長崎での連携パスはどうなっているのか。(看護師)
- ・進んでいない。(医師)

- ・基準パスの提示を。(医師)
- ・まだ新しいことなのでこれからのことが多いと感じました。
- ・5 大がんでも比較的アジュバンドでフォローしやすい乳癌や前立腺癌の受け入れがアンケート結果で少なかった点。
- ・パスが患者に受け入れられるかという所が最も気になった点で、これからの課題であろうと思う。常に連携する医師からの評価を受けるということで厳しい部分もあると思われます。(医師)
- ・県に、地域差はあると思うが、田舎の「がん拠点病院」で、拠点病院 — 病院、診療所で、標準的医療が受けられるか(患者からみて)不明。(医師)

③ 講演に対する要望

- ・専門医とは?かかりつけ医とは?定義について、なぜクリティカルパスとはいるのでしょうか?(医師)
- ・まだ十分に準備する段階に至っていないので、もう少ししてからまたいろいろお話をうかがいたと思います。(看護師)
- ・特になし(医師)
- ・実例をあげて説明があったらよいかと思います。(医師)
- ・特にありません(事務職員)
- ・職種毎にどのように関与しているかを講演していただきたい。
- ・拠点病院にむけて進めている医療機関はどういう点に注意していったらよいか等、具体的に話すのもよいかもしいかなと思った。(事務職員)
- ・また谷水先生の講演をききたい。(医師)
- ・パスの内容と共に、それ以上にコーディネーターの存在とコーディネーターそのものが重要性をもつことが再認識されました。質問に答えられたことで「一般病院は多様な役割から連携する必要がある」は大変示唆的でした。(医師)
- ・がんの勉強会を増やして欲しい。
- ・時間的に丁度良かったと思います。(事務職員)
- ・資料が小さく縮小されていて見るのがきつい。もう少し大きく拡大したものはできないでしょうか?紙の節約ということはわかるのですが。(事務職員)
- ・地域連携の実際についても話をききたい。次の講演でお願いしたい。(医師)
- ・一歩ずつ先へ進むようになっていけそうな感じで話されていたのでよかった。患者を見捨てないがん治療連携はヒューマニティがあり、医療のロマンを感じる。大へんな事業だと思うので、こういう気持ちでつなげればと思います。(看護師)
- ・今後も研修会しましょう。(医師)

次回の講演で希望すること

- ・場所は最適です。(医師)
- ・緩和ケアでのNS やコメディカル(臨床心理士など)の役割について。(臨床心理士)

- ・時間帯は良かった。土曜日の方が多く集まれるのでは。(事務職員)
- ・中でも話された、看護師の置かれた位置、求められる役割(コーディネーター、パスを進める役割)等についての啓発や共通認識をもつための講演ありがたい。(医師)
- ・連携パスの疾患別の説明。(医師)
- ・パスの疾患別の勉強会。土・日・祝の昼間におねがいします。新建材アレルギーなので今回すこしづらかったです。(薬剤師)
- ・今の時期でいいと思う。(事務職員)
- ・短時間でまとめる。具体的なパス案を双方向性に検討しては？(医師)
- ・地域ごとのグループ話し合いがあれば・・・(医師)
- ・講演会もいろいろな地区で行われれば参加しやすいと思います。(医師)
- ・今回と同様の方法で可。(医師)

がん診療センターに対する要望

- ・女性の人(講演者)も多く取り入れてはどうか。
- ・最新の治療・診断に対してのリーダーシップをとってほしい(勉強会など)。
- ・正しい医療の主張という難しいことをはっきり発言され、先生は素晴らしいです。本当に良い治療を願っておられると感じました。
- ・新しい情報などメール配信していただければたすかります。